

会議録

会議名	第1回 八王子まち・ひと・しごと創生総合戦略推進懇談会	
日時	平成27年6月1日(月) 午後7時 ~ 8時30分	
場所	八王子市役所 本庁舎 501会議室	
出席者氏名	参加者	芦川正明、石川敏之、伊藤史子、大島紀代、落合隆、栗本正男、嵯峨洋輔、高橋新也、中庭光彦、前田伸也
	事務局	伊藤紀彦(都市戦略部長)、橋本光太郎(都市戦略課長)、今井明(都市戦略課主査)、実森将人(都市戦略課主任)、金子正明(都市戦略課主事)、佐藤幾子(都市戦略課主事)
	その他市出席者	木内基容子(総合経営部長)、大野哲宏(市民活動推進部長)、大西健二(産業振興部長)、小澤篤子(子ども家庭部長)、駒沢広行(都市計画部長)
欠席者氏名	-	
議題	<ol style="list-style-type: none"> 1. 開会 2. 参加者自己紹介 3. 本懇談会の開催目的 4. 現在の取り組み状況と懇談会の進め方について 5. 今後の人口減少対策について(意見交換) 6. その他 7. 閉会 	
公開・非公開の別	公開	
非公開理由	-	
傍聴人の数	なし	
配付資料名	<p>参加者名簿</p> <p>資料1 「八王子まち・ひと・しごと創生総合戦略推進懇談会」開催要綱</p> <p>資料2 まち・ひと・しごと創生法</p> <p>資料3 まち・ひと・しごと創生長期ビジョン(平成26年12月閣議決定)</p> <p>資料4 まち・ひと・しごと創生総合戦略(平成26年12月閣議決定)</p> <p>資料5 国と地方における人口ビジョン・総合戦略の構成(内閣官房作成資料)</p> <p>資料6 八王子まち・ひと・しごと創生総合戦略策定スケジュール</p> <p>資料7 基礎データ分析中間報告資料</p> <p>まち・ひと・しごと創生「長期ビジョン」「総合戦略」(内閣官房パンフレット)</p> <p>八王子ビジョン2022(八王子市基本構想・基本計画)</p>	
会議の内容	別紙のとおり	

1. 開会

《懇談会の運営について》

【事務局】

- ・会議は公開して開催することとし、議事録は参加者へ事前確認のうえ氏名を含め市ホームページへ公開することとしたいが、いかがか。
- （異議なし）
- ・では、そのように決定する。

2. 参加者自己紹介

（参加者及び事務局による自己紹介）

3. 本懇談会の開催目的

《説明》

【事務局】

（配布資料1～5についての説明）

《座長選出》

【事務局】

- ・本会の進行役となる座長の選出について、意見はあるか。
- （意見なし）
- ・意見が無ければ、八王子商工会議所からの推薦で参加いただいている落合氏にお願いしたいが、いかがか。
- （異議なし）
- ・では、そのように決定する。

4. 現在の取り組み状況と懇談会の進め方について

《説明》

【事務局】

（配布資料6～7についての説明）

5. 今後の人口減少対策について（意見交換）

【芦川氏】

- ・これからは子育て世代、若者世代の定住を目指して地域間での競争が顕在化すると思われる。
- ・ターゲットを絞り、今いる人を他へ逃がさず、満足してもらうことが必要。
- ・地域のことを一般の人に知ってもらえるよう、外へPRすることも大切。
- ・これから一番重要であるのは、学生や20代、30代に対し、いかに手当をしていくかである。財源を明確なビジョンで使うことが大切である。

【石川氏】

- ・人口減少対策というと、余りに幅広い。もう少し絞って、何に対して意見を言えば良いかを示してほしい。
- ・いろいろな分野で課題があるので、それぞれの分野における課題を明確にして対策を考える必要がある。

【伊藤氏】

- ・市として人口が減っていくのは致し方ないことだと思っている。増やさなければ、という発想では無く、減るだろうという前提で何をすべきかを考えるべき。
- ・八王子は市域が広いので、年齢層や地域別に状況を考えるべきである。
- ・市の都市政策研究所では、「人口構造の変化を見据えた八王子のまちづくり」の中で地域別の分析を行っている。こういった内容を踏まえて議論した方が良い。
- ・八王子は、平成22年までは出生数が死亡数を上回っていたと記憶している。これは、周辺の自治体と比較して、子どもを産む世代の定着が多いということで特徴的な部分であると思う。
- ・大学が多いことで、卒業後の転出はあるものの、若年層が多く入ってくるということは良い事であると感じている。

【大島氏】

- ・地域の若者は、外へ出てしまい戻ってこない。
- ・自身も、市外へ出る子どもを止められなかった。市内に仕事が無い現状がある。
- ・今の親は忙しすぎて、子どもが親の背中を見て育つことができない。
- ・若者は、雇用など、先の見えない不安の中で生活している。そういった事が子育てにも影響しているのではないか。

【栗本氏】

- ・国が言う、合計特殊出生率1.8の実現は無理だと思う。
- ・子どもたちが、住んで良かったと誇れるまちになれば良いと思っている。

【嵯峨氏】

- ・今後、日本の人口が減少するのは確実。それを受け止めた上で、市は減少率を減らすのか、人口を維持するのか、増加を目指すのか、市としての具体的な目標を示してもらえれば具体的な議論が出来る。
- ・どれだけ行政サービスを充実させても、転職や死亡による減少は防ぐことは出来ない。転入増や、学生の定着率増などを考えると良いのでは。
- ・市外や学生へのPR・アピールが必要。

【高橋氏】

- ・家を探すときに重要な要素は、通勤が楽かどうか。八王子には、座って都心へ出られる駅がほとんど無い。
- ・例えば、鉄道事業者と調整して南大沢始発の路線を作ってもらえることができれば、アピールポイントになるのではないか。
- ・市内の保育園よりも近隣他市の方が近いところに住んでいるが、市からのお知らせは市内のことだけしか出ていない。近隣市と連携して周辺の施設も選択できるようにすることで魅力があがると考えている。

(子ども家庭部長から説明)

- ・制度上は近隣市の保育園を利用することも可能であり実際にそのような例もあるが、各市待機児童がいる中で難しいのが現実である。

(総合経営部長から説明)

- ・周辺市との連携については、図書館や予防接種など、可能なところから進めているところ。

【中庭氏】

- ・徳島の神山町のように、地方において人口増に成功している事例もある。現地に行ってみると、付近の国道沿いにロードサイドショップがあるなど、便利な過疎地であることが分かる。
- ・これまで、鉄道中心の歩いて暮らせる都市づくりが行われてきたが、車で移動することが普通で、便利であるという基盤を作ると良いのでは。
- ・八王子のように、都市でありながら、みどりが多い地域も有する市では、車をプラスの要因に変え、移動を担保することが必要。
- ・インバウンドの人に好まれるのは、便利で自然があるところである。日本らしいというものを軸にして、サービスの仕事など、雇用を作っていくことが必要。
- ・学園都市という事でとらえると、八王子で学び、少し仕事をした後で全国に帰っていくというモデル拠点を作ることもできる。
- ・八王子と23区との役割分担を考えることが必要。

【前田氏】

- ・八王子の地理的特徴を捉え、政策を立ち上げるべきである。
- ・都は多摩担当副知事をおいたが、考えが見えない。こうした都政に対し、多摩の各市が個別に取り組むだけでなく、周辺地域を含んだビジョンを示すことが必要。たとえば人口増を見込める子どもの医療費助成は、各自治体の垣根を取り払って、都に強く要望を出す機会を得たい。

【落合座長】

- ・人口減少により、国や地方だけでなく、企業や市民にとっても大変な状況になるということを、若い世代も含め、みんなに知ってもらわないといけない。今はそこまでの問題意識を市民が持っていない。
- ・行政には、情報発信をしてほしい。

【都市戦略部長】

- ・総合戦略は、人口減少と安定した雇用の創出が大きなテーマである。
- ・現在、市のシティプロモーションについて方針を検討しているが、その中では20～30代への魅力発信や、大学生が市内に住み続けたいと思うような魅力発信を考えている。
- ・皆さんにご意見をいただきながら、総合戦略を策定したい。

6. その他

《説明》

【事務局】

- ・次回の開催は7月下旬を予定している。調整のうえ決定し連絡する。

7. 閉会